

# 第3学年音楽科学習指導案

1. 題材名 「修学旅行の『思い出の言葉』を使って歌を作ろう」  
～「思い出の言葉」のリズムや抑揚もとに旋律を作ろう～

## 2. 考察

### (1) 題材観

#### ①学習内容：学習指導要領上の位置づけ

##### ・A表現

(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。

##### ・本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

リズム、旋律、形式

#### ②主な伸ばしたい資質・能力

・日本語の言葉が持つリズムや抑揚を生かして、音楽としてのリズムや音程を考えることができる力。

・「花」で学んだA-A' -B-A'の二部形式を生かして、曲全体の構成を考えることができる力。

#### ③そのために必要な指導・学習活動

・日本語の言葉が持つリズムと、音楽としてのリズムを繋げて捉えるために、言葉をリズムに置き換える活動。

・日本語の言葉が持つ抑揚と、音階の中にある音の動きを繋げて捉えるために、音程（音の高さ）を線で表す活動。

・線で表した音程（音の高さ）を、ハ長調の和声に沿ったI-IV-I-V（I）及びIV-I-I-Vの和音の動きとハ長調の音階の中から自分たちのイメージと音の動きから適切な音を選び、五線譜の音程（音の高さ）に置き換える活動。

・二部形式から「B」の部分は、「A」の部分とリズムや音程（音の高さ）を変えて作成することを意識させる。

#### ④今後の学習の活用

・今回の授業を通して、自分を表現する一つ的手段として音楽創作を選ぶことを視野にいれることができるようにする。

## (2) 児童生徒の実態および指導方針 (34名 男子18名 女子16名)

### ①既習の学習内容や活動

- ・教科書にあるリズムの図に表示されたリズムをつなぎ合わせ、オリジナルのリズムを作る活動を行ってきた。
- ・「主は冷たい土の中に」(1年次)、「夢の世界を」(2年次)、「花」(3年次)等の楽曲を使って、曲にはA-A' -B-A' やA-B等の構成になっていることを学習しており、Bの部分は、強弱や旋律のリズム・音程等が大きく他の部分と変わっていることも楽譜から読み取ってきている。

### ②本単元に関わる児童生徒の実態

最初は創作活動を行うことに乗り気ではない雰囲気であったが、修学旅行を終え、宿題として旅行での思い出の言葉を書かせてみると、グループで楽しそうにそれらの言葉を見合う様子がみられた。また、既存の曲に替え歌をつけて口ずさむ様子などもみられ、前向きな気持ちで創作活動に取り組もうとする姿勢が見られた。

しかし、音符を書く活動への抵抗感は強くあり、ブラスバンド部員の生徒を頼ろうとする言動も見られた。

### ③指導方針

- ・グループでどのような雰囲気(わくわくするような、行進曲のような、流れるような等)の、どんなテーマの曲(食べ物、見学地、出来事等)を作りたいのか「思い」をもたせ、曲作りに取り組ませる。
- ・修学旅行の思い出に関する言葉を大切にし、言葉のリズムや抑揚にあった旋律を作れるように支援する。
- ・録音機器を用意し、思いついたリズムや旋律をストレス無く記録できるようにする。
- ・唯一の自分たちだけの思い出の曲を作る活動を通して、自分たちでオリジナルの作品を生み出すことの面白さを味わわせるとともに、生涯学習における自己表現の選択肢として音楽創作活動があることに気づかせる。

## 3. 題材の目標

修学旅行での「思い出の言葉」を使って、言葉のリズムや抑揚を生かし、表現を工夫して旋律をつくることができる。

## 4. 評価規準

ア・創作活動への 関心・意欲・態度	イ・創作活動への創意工夫	ウ・創作活動の技能
自分たちが考えた言葉や選んだ音階などの特徴(言葉の抑揚、リズム、音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気など)に関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	自分たちが考えた言葉がもつ抑揚やアクセントから、リズムや旋律へと繋がることを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を甘受しながら、言葉や選んだ音階などの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	自分たちが考えた言葉や選んだ音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能(課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など)を身につけて旋律をつくっている。

5. 指導計画（全5時間 本時は3時間目）

学習過程	時	○ねらい ・学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
				関	工	技
つかむ	1	<p>○グループで作る曲の「テーマ」を決め、自分たちが考えた言葉をプリントから選び、自分たちの思いをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の雰囲気とテーマを決める。</li> <li>・プリントから「テーマ」をもとに歌詞として使用したい言葉を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの曲の骨子となる「テーマ」をプリントに書いた言葉をもとに考えさせる。</li> <li>・曲の雰囲気も「行進曲みたい」「○○の曲のような優しい感じ」等のヒントを与え、考えられるようにする。</li> <li>・言葉は、形容詞の活用形や並び順は変えてもかまわないことを示す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【題材の課題】</b> 「思い出の言葉」を基に、言葉のリズムや抑揚を生かした旋律をつくろう。</p> </div>	○		
追求する	2	<p>○選んだ言葉をもとに「A」の部分のリズムと「B」の部分のリズムを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A, A' は似ている旋律になることから、言葉の音や数が似ているものにするると良いことを伝える。</li> <li>・Bは、A, A' とは違うリズム、違う音で旋律を作ることを「花」や「主人は冷たい土の中に」等を参考に考えさせる。</li> <li>・スマホや録音機器に鼻歌や手拍子などでリズムを記録できるようにする。</li> </ul>		○	○
	3 (本時)	<p>○作ったリズムをもとに、言葉の「抑揚」を生かして旋律を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「線」で言葉の動きをとらえる。</li> <li>・調性を選ぶ。</li> <li>・音を当てはめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の「抑揚」を生かして音程を「線」で表現させる。</li> <li>・「線」の動きをもとに音を当てはめ、旋律を作らせる。</li> <li>・ピアノやスマホ鍵盤を使い、音の確認ができるようにする。</li> </ul>		○	○
	4	<p>○言葉の違いなどで音やリズムが変わるところを調整し、曲を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に弾いてもらう。</li> <li>・自分たちで歌って友達に聞いてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の数や抑揚の違いなどで、違和感を感じる部分の調整を行わせるために、教師が旋律を弾く。</li> <li>・他のグループに聞いてもらうことで、音やリズムに違和感があるところに気づいてもらえるようにする。</li> </ul>		○	
まとめる	5	<p>○グループのテーマや思いをもとに、互いの曲を聴き合い、言葉とリズム、言葉と抑揚の表現の工夫を感じながら聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や楽譜が他の生徒にわかるように掲示する。</li> </ul>	○		

## 6. 本時の学習

### (1) ねらい

- ・つくったリズムをもとに、言葉の「抑揚」を生かして旋律をつくることができる。

### (2) 授業改善の視点

- ・言葉の「抑揚」を生かして旋律をつくるために、言葉の音の高低を「線」で表現させてから音階の音を当てはめていくことは、有効であるか。

### (3) 準備

前時までのプリント、録音機器（ICレコーダー、スマートフォン、タブレット）

### (4) 展開

学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	指導形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する生徒への支援 ◇評価
1. 本時の学習課題を確認する。  2. 言葉の抑揚を線で表す。 ・教師が例示した「やつはし」「金閣寺」などの言葉の抑揚を線で表してみる。	1 0 分	一斉	・子どもたちが実際に使っている言葉の中から数点取り出し、抑揚を線で表すという活動を一緒に行い、言葉と音の高低が繋がるようにする。
<b>めあて</b> つくったリズムをもとに、言葉の「抑揚」を生かして旋律をつくろう。			
3. 自分たちが考えた1段目の歌詞を言葉の抑揚を考えながら線で表す。  4. ハ長調の音階の中から音の組合せの見本を手がかりに、音を並べてみる。	3 0 分	班別	・並べた音を旋律として確認できるように、ピアノやスマホ鍵盤アプリを使えるようにしておく。 ・鼻歌などで表現したものを記録できるように、ICレコーダーやスマートフォンを用意しておく。 ・他のグループの参考となるように、グループで思い通りのものができた場合など、教師から紹介したり、工夫した点を発表させる。 ◇作ったリズムをもとに、言葉の「抑揚」や音階の特徴を生かして表現を工夫しながら旋律をつくることができる。 <div style="text-align: right;">【工夫・技能】</div>
5. 次の時間の課題を確認する。	1 0 分	一斉	・製作途中のグループの鼻歌や演奏を机間巡視の教師が録音し、最後にみんなに一部でも紹介できるようにしておく。